

目指す学校像	みんなの笑顔が輝く学校「ス(進んで学ぶ等)マ(まっすぐな心等)イ(一生懸命等)ル(ルールを守る等)みなみ」
--------	---

重点目標	1 学びの自律化、個別最適化に向けたICTの活用と、思考力・判断力・表現力の向上 2 安心・安全な学校を目指す組織的な対応の強化と安心・安全で豊かな心を育む教育環境の整備 3 コミュニティ・スクールの円滑な実施と信頼される学校づくり 4 認め合う態度の育成を意識した授業の実践による指導力向上と学校課題研究(人権教育等)を核とした授業づくり
------	---

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学 校 自 己 評 価		年 度 評 価		学校運営協議会による評価				
年 度	目 標	年 度	評 価	実施日	令和6年2月15日			
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等
1	(現状) ○昨年度の全国学力・学習状況調査や市の学習状況調査では、国語、算数ともに全国、市平均と比べ概ね良好な結果である。 (課題) ○全国学力・学習状況調査の結果分析から、国語の思考力・判断力・表現力等の「書くこと」「読むこと」における記述式の問題に、また、算数も記述式の問題に課題がある。 ○昨年度の国語・算数の自校テストにおいて、「思考力・判断力・表現力」の項目が「知識・技能」の項目よりも課題がある。	・学びの自律化、個別最適化に向けたICTの活用 ・思考力・判断力・表現力の向上	①金曜朝に「基礎学力パワーアップタイム」を実施し、「ドリルパーク」や「スタディ・サブリ」等を活用した漢字や基礎的な計算等の反復・習熟ができるようにする。 ②全国学力・学習状況調査結果等を分析し、効果的な手立てを設定する。	①月初めの「基礎学力パワーアップタイム」にて児童が学習履歴を確認し、学習計画を設定したり修正したりすることができたか。 ②8月までに学力向上カウンセリング訪問により指導を受け、授業改善の視点や手立てを学年ごとに設定することができたか。	①児童は自ら学習履歴を毎月初めに振り返り、次の計画を立てることで、毎週金曜朝の「基礎学力パワーアップタイム」において、「ドリルパーク」や「スタディ・サブリ」を活用した基礎的な反復・習熟として、自分に最適な学習内容に取り組むことができた。 ②8月に全教職員で全国学力・学習状況調査結果と各学年の自校テストを分析することで、算数の「図形」や国語の「書く力」など、各学年で重点を絞って、授業改善の手立てを考え、取り組むことができた。	B	①基礎基本の定着に向けた個別最適化の学習に取り組んでいたが、授業における個別最適化の学習方法として、自力解決における学習方法の選択肢としてタブレットを活用した展開例の研究を進めていく。 ②今年度の授業改善の手立てを実施した検証・分析を行い、指導のポイントや重点単元を絞って、指導の充実を図る。	○パソコンを使った授業や発表の練習をするような授業など、全学年の様々な授業を参観することで、小学校における子ども達の大きな成長に感動して涙が出そうだった。先生方の指導や学校の取組をもっと地域に、知らせるとよい。
2	(現状) ○昨年度の学校自己評価に係るアンケートにおける「学校に行くのを楽しみにしている」の項目で、肯定的な評価が児童・保護者・教職員ともに9割に届かなかった。 ○昨年度の学校自己評価に係るアンケートにおける「生徒指導」「教育相談」「組織運営」の項目で、肯定的な評価が保護者等・教職員ともに9割を超えた。 (課題) ○屋上の防水、各施設の老朽化、職員室等にエアコンがないことによる燃料費の問題などが課題である。 ○学校運営協議会委員から「学校の花が少ない」と感じられる現状がある。	・安心・安全な学校を目指す組織的な対応の強化 ・安心・安全で豊かな心を育む教育環境の整備	①児童向けの「心と生活のアンケート面談」と「スマイル月間(本校独自の個人面談)」を学期に1回ずつ実施したり、保護者向けの教育相談日を毎月設定したりし、児童が安心して生活できるようにする。 ②「心のサポート週報」による情報の共有や蓄積など、課題のある児童の情報を共有し、共通理解・共通行動を行う。	①学校自己評価に係るアンケートにおける「学校に行くのを楽しみにしている」「友達と仲よくしている」の項目で、児童の肯定的な評価が9割を超えたか。 ②学校自己評価に係るアンケートにおける「生徒指導」「教育相談」「組織運営」の項目で、肯定的な評価が保護者・教職員ともに9割を超えたか。	①スマイル月間や教育相談日の実施により、児童の悩み等に迅速に対応することで、「友達と仲よくしている」では9割5分を超えたものの、「学校に行くのを楽しみにしている」では9割にわずかに届かなかった。 ②情報共有だけでなく、児童への指導・支援や保護者対応について協議して、3委員会が連携することができたので、「生徒指導」「教育相談」「組織運営」それぞれにおいて、肯定的な評価が昨年度から継続して保護者・教職員ともに9割を超えた。	B	①「学校に行くのを楽しみにしている」が9割に届かなかったため、今後、人間関係プログラムの研修を行うなど、常態的・先行的な生徒指導の充実を図る。 ②今年度の評価を維持するため、「心のサポート」週報による情報の共有や蓄積など、本校の「生徒指導」「教育相談」「組織運営」の取組の一層の充実を図る。	○パティシエを呼んで将来の話聞く機会や、地域へ出向いて話を聞くなどの機会が南浦和小は多くある。 ○子どもたちが心を閉ざした時、迷った時に話を聞いてあげられる環境として家庭・学校・地域が連携していることを子どもたちにもっと知ってほしい。
3	(現状) ○学校運営協議会が本校児童に身に付けさせたい力として挙げている「チャレンジする心」を育むためにできることについて継続して熟議を行っている。 ○昨年度の学校自己評価に係るアンケートにおける「情報発信」の項目で肯定的な評価が9割を超えていた。 (課題) ○昨年度実施した学校運営協議会主催の「あいさつチャレンジデー」の一層の充実を図るなど、本校児童に身に付けさせたい力として挙げられた「チャレンジする心」についてさらに熟議し、その実現に向けた方策を定めていく。 ○昨年度の学校自己評価に係るアンケートにおける「地域や保護者の思いや願いへの対応」の項目で、肯定的な評価が9割を超えた。	・コミュニティ・スクールの円滑な実施 ・信頼される学校づくり	①委員が本校の課題を自分事として意識できるようにするための熟議を実施する。 ②コミュニティ・スクールに関する内容を家庭や地域へ周知する。	①年3回開催する学校運営協議会において毎回、熟議を設定できたか。 ②学校運営協議会を開催した翌月の学校だよりにおいて、コミュニティ・スクールの内容を掲載したか。	①児童の「チャレンジする心」をはぐくむためにできることを熟議したところ、昨年度に続き、本年度も学校公開日に学校運営協議会主催の「あいさつチャレンジデー」を実施した。 ②学校だよりに掲載したり地域の会議等で話題にしたりするなどして周知を図った。	A	①②学校運営協議会主催の「あいさつチャレンジデー」のような取組を継続して実施するとともに、子どもたちの「チャレンジする心」をはぐくむための啓発を図っていく。	○2年連続実施できた「あいさつチャレンジデー」と、6年生を対象とした「天体観望会」は、大変よい取組のため、続けてほしい。挨拶が互いを認識し気持ちよくできる取組となるよう、気長に実施していきたい。
4	(現状) ○昨年度に実施した「よい授業アンケート」において市平均よりも0.5ポイント超えている状況である。 ○昨年度に実施した学校課題研究の体育科に関する児童アンケートでは、「体育の授業が好きか」の項目で、肯定的な評価が9割を超えていた。 (課題) ○昨年度に実施した「よい授業アンケート」の「児童生徒の活動」において、12月の結果が6月の結果の0.1ポイント向上にとどまった。 ○体育科に関する児童アンケートによると「認め合い」に課題がある。(A評価が55%)	・認め合う態度の育成を意識した授業の実践による教員の指導力向上と学校課題研究(人権教育等)を核とした授業づくり	①一人1回以上、「協働的な学び」を意識した授業を、管理職はじめ教職員に公開する。 ②学年会等で協議し、共通した指導方法等で授業を実践し、認め合う態度を育成する体育科の授業を実践する。	①2回目の「学びの指標」調査の結果を1回目自校平均よりも向上できたか。 ②体育科に関する児童アンケートにおいて、「認め合い」の項目で、A評価を55%から65%へ向上できたか。	①一人1回以上「探究的な学び」を意識した授業公開を行い、さいたま市「アクティブ・ラーニング」型授業を実施したが、「よい授業アンケート」の「探究的な学び」において、1回目の自校平均よりも0.1ポイントの向上に留まった。 ②本校学校課題研究を通して、学年会等で体育科における共通した指導方法を協議し、実践することで、昨年度より「よい動きの理解」を30.5pt、「認め合い」を25.7pt向上することができた。	B	①「探究的な学び」において、1回目の自校平均より0.1ポイントの向上に留まったので、0.5ポイントの向上を目指し、「学びのポイント『じ・し・ゃ・く』」を生かした授業の研修等を実施し、「探究的な学び」の充実を図る。 ②学校課題研究を基にした実践成果が出た。来年度の研究領域「個別最適な学びと協働的な学び」の一体的な充実においても、向上させることができた「認め合い」を生かして、研究を深めていく。	○本年度の南浦和小の研究である「体育」を継続して教育活動に生かしつつ、次の研究でも子ども達の成長のために取り組んでいただきたい。